



紙の匂いの記憶

泉 麻人

紙の匂い、にまじわるいくつかの記憶がある。

まだ五歳か六歳という幼い頃、父親が時折オミヤゲを提げて帰ってきた。ケーキなんかのときもあつたけれど、とりわけ胸がときめくのは、直方体の箱形のオミヤゲだった場合である。車や電車、飛行機や人形……の飾り絵が描かれたこれは当時中野にあったイツツヤとかいうオモチャ屋の包装紙である。包みをとくと、だいたいブリキの自動車玩具が入っている。ヒュン、プリンスルー、オーズチン……どんな自動車が出てくるか、期待をぶくからませながら包装紙をひらく。そして、車の絵が刷り込まれた化粧箱を開けた瞬間、漂ってくるとてもいい匂い。オモチャのブリキと、箱の厚紙の匂い、とが混合した独特の香りである。あの宝箱を開封するときに嗅いだ、紙

の匂いが忘れられない。

当時の月刊漫画雑誌には、「大懸賞」などと銘打たれた景品が当たるクイズやクジの企画がよくあつた。僕が定期購読していた月刊誌「少年」に、「スピードクジ」というのがあつて、袋とじになつたページの隅を破くと、等賞の表示が刻まれている。一度だけ、四等賞が当たることがあつた。景品は、確かブリキ製の機関銃だつたと思う。

当たりクジの切り抜きを発送して、ちよつと後の号の当選者名簿に自分の名前を見つけたときは、たまたまなくうれしかった。しかし、本体の景品は一向に送られてこない。毎日のように郵便受けをチェックして、ようやくそれらしい郵送物を見つけた。機関銃のオモチャは、何の変哲もない黄土色のタンボールに包まれているだけだつたが、このときのタンボール紙も、こたえられない匂いがした。

真新しい教科書から発散される匂い、というのも印象深い。とりわけ小学校に上がった始業式の日、配布された教材一式から漂ってきた、なんともいえないすがすがしい香り。これが時が経つうちにランドセルに一緒にぶちこんだ食べ残しのマーガリンの匂いなんか染みついて、ある種の生活臭を帯びてくる。新



泉 麻人(いずみ・あさと) 1956年東京生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。『週刊TVガイド』『ビデオコレクション』の編集後、フリーのコラムニストとして活躍。著書は『電脳広辞園』『昭和遺産な人ひと』など多数。

品の教科書もいけれど、あの使いこんだ教科書の匂いも、それはそれで想い出深い。

もつ少しオトナになつてからの話をしよう。中学生の頃から、洋楽のレコードをよく聴くようになった。ビートルズはもう解散する時代だが、深夜ラジオの影響で、ニール・ヤング、スリー・ドッグナイト、シカゴ……話題のアルバムを探し、しばしばレコード店に通つたものである。銀座の山野楽器、御茶ノ水のディスクユニオン……といった大きな店にいくと、輸入盤のコーナーが充実している。いまや「輸入盤なんて言葉自体、死語」といっているが、七十年代の当時は貴重品だったのである。

国内盤と違って、輸入盤は厚紙のジヤケットが、セロファンでびっちり真空パックでもするよつに「コーティング」されている。開け口の所にビツとハサミを入れて封を切つた瞬間、パイナップルみたいな独特の香りが鼻を刺す。日本のレコードジャケットとは違うそんな匂いに、憧れのロックミュージシャンたちがいるアメリカやイギリスの地を想像した。

PAPER COLUMN Vol.3

世界9カ国で植林

みなさんは、製紙業界が植林していることを知っていましたか？

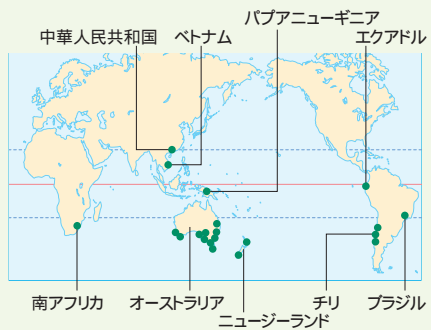
現在、日本の製紙会社では、木を「育てる原料」として国内13万ha、海外では9カ国・35万haの植林をしています。

植林は、主に荒れた土地や牧草地などで行われ、緑豊かな森林へと姿を変えてゆくの

です。主な植樹は、ユーカリ、アカシアなどで、およそ8年で成木になります。

木は、成長する時に二酸化炭素を吸収するため、地球温暖化防止の役にも立っているのです。

今後、2010年までに国内外合わせて55万haの植林を目指しています。これは、千葉県や愛知県がすっぽり入るほどの広さです。



資料:日本製紙連合会

